

悔いのない最高の準備を



校長

黒澤 光弘

日ごろよりラグビー後援会の皆様には本校及びラグビー部の活動に対し、御理解と御協力、並びに物心両面からの御支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。

今年度、伊東真吾監督が三年ぶりに監督に復帰し、藤盛部長、淡路総監督、草皆コーチの四名の新体制でスタートいたしました。また、これまで同様のOBのコーチ陣に、新たにテクニカルアドバイザーとして、OBの伊藤 護氏（平成六年卒、現國學院大學ラグビー部監督）に、強化スタッフの一員として、また、秋田県の高校ラグビーの強化システム事業全般の強化のためにも、携わっていただくことになりました。大変、心強い限りであります。

昨年は、記念すべき「第一〇〇回全国高校ラグビー大会」に出場することができました。残念ながら、新型コロナウイルスの感染防止対策で、完全な無観客試合となり、会場には各校最大四十名という厳しい入場制限がありました。私もスタッフの一員として会場入りし、部員と共に闘わせていただきました。今回は、大変名誉なことに3試合ともワールドカップで使用した、世界仕様の第一グラウンドでプレーすることができました。しかしながら、普段の花園では考えられない、プレーヤーの息遣いや激しくぶつかり合う音が、鮮

明に聞こえるで異様な静寂感と雰囲気の中で試合に、選手たちも最初は戸惑いもあったのではないかと思います。それでも、自分を見失うことなく、オーソドックスでアップテンポな「秋田工業のラグビー」を展開し、ベスト8以上という目標は大阪朝鮮高校に阻まれましたが、ベスト16という成績を残すことができ、復活への確かな手ごたえを感じ取ることができました。

迎えた4月、少子化の影響で各校とも部員確保に苦労している中で、二十二名の新入部員を迎え、総勢五十名で力強くスタートすることができました。今年の1年生は、素質に恵まれた将来性豊かなメンバーが揃いました。また、秋工ラグビー部史上初となる女子マネージャー二名が加入いたしました。二人は半年が過ぎ仕事も覚え、少し日焼けした笑顔を振りまき、グラウンドいっぱい走り回り、部員達を懸命にサポートしてくれています。

現チームは、花園でレギュラーとして活躍した二年生四名が中心となり、バランスの取れた楽しいチームに成長しております。二月の東北新人優勝、三月の全国選抜大会、また、夏には全国七人制ラグビー大会に出場し、全国の強豪校と対戦し、貴重な経験を積むことができました。三年生部員が十一名と少ないため、レギュラーの半数近くが二年生という若いチームです。今後の伸びしろが大きく期待されます。

私のラグビーの恩師である佐藤忠男元監督からの、「チームは自分の作品である」「心を込めて、最高の作品に作り上げる」「公

式戦は、その作品を披露する場である」というこの教えは、私の監督としての指導哲学の根幹であります。どうか、伊東監督を中心に顧問の先生方には、残された期間を、緻密な計画と強化によって、見る者に感動を与える最高傑作を作り上げてくれことを期待しております。

五十名の部員の皆さん。一〇〇回記念大会で、「復活に向けてきっかけ」を作ってくれた先輩達の頑張りには報いるためにも、まずは花園の県予選に全神経を集中させてください。そして、今年こそは保護者の方々をはじめ、多くの本校関係者が、花園の地で秋工ラグビーの勇姿を応援したいと楽しみにしております。これからの戦いは、対戦相手のみならず、新型コロナウイルスとの戦い、そして何よりも自分自身との戦いでもあります。全てに打ち勝ち、日本一のグラウンドで悔いのない最高の準備をし、十月三十一日の決勝戦、全校生徒の応援を背に受け、「聖地花園」のキップを勝ち取りましょう。

「走る・タックル・トライ」

秋工ラグビーの健闘を祈ります。

終わりに、福島県郡山市在住の本校ラグビー後援会員、小幡 孝様、洋子様御夫妻より、ラグビー後援会に対し三百万円という多額のご寄付を頂きました。「小幡基金」として、有効に活用させていただきます。この場をお借りし、心より厚く御礼申し上げます。

